

令和2年度(2020年度)

病害虫発生予察情報 第2号

注意報第2号

北海道病害虫防除所 令和2年(2020年)年4月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

りんごの黒星病が早発・多発の恐れ！

防除開始が遅れないように薬剤防除を実施しましょう。

前年は全道でりんごの黒星病の発生が認められました。そのため、越冬した感染源も多いと推測されます。また、本年の融雪期は早く一次伝染源となる子のう胞子の飛散が早まると予想されるため、特に注意が必要です。

本病は春季に飛散する子のう胞子が一次伝染源となり、葉などにできた病斑部から分生子が飛散し、二次伝染します。そのため、葉への一次伝染を抑えることが重要です。本年はりんごの生育が平年よりも早く進む可能性があるため、防除開始時期に注意してください。薬剤散布にあたっては適切な散布量、散布速度で散布ムラが生じないように防除を実施し、散布間隔が開きすぎないようにしてください。また、苗木も成木と同様に防除を実施してください。道内において薬剤の耐性菌、感受性低下菌が認められているため、薬剤の選択に注意してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生期 早

3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 前年における本病の発生量が多かったため、葉、枝に形成された病斑で越冬した感染源も多いと推測される。
- 2) 一次伝染源となる子のう胞子の飛散開始には、消雪日からの積算気温が影響すると考えられている。本年は積雪量が少なく、多くの地域で融雪は早まっているため、子のう胞子の飛散時期は早いと予想される。

5. 防除対策

- 1) 子のう胞子の飛散時期が早く、飛散量も多いと予想されるため、薬剤の散布開始が遅れないように注意する。
- 2) 薬剤散布にあたっては、散布ムラ、散布水量の不足が生じないように丁寧に散布を行う。散布間隔は10日以上開けないように注意する。
- 3) 前年、本病が多発した園地では、一次感染源となる落葉を園地外に持ち出すなど、適切に処理する。
- 4) チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が全道各地で認められているため、本病対象の防除には薬剤の選択に注意する。
- 5) 本病対象の防除において、QoI剤耐性菌発生地域では当該薬剤を使用しない。DMI剤感受性低下菌発生地域では当該薬剤の使用を可能な限り低減する。両剤に対する耐性菌、感受性低下菌発生地域に関しては平成30年度病害虫発生予察情報第20号(特殊報第2号)を参照する。その他の地域については、適切な薬剤を選択し、連用、多用を避けるなど薬剤耐性や感受性低下の発達を抑えるように心がける。